



令和3年度川俣町立福田小学校学校だより

しらさぎ Kids NO. 38

令和4年1月19日

文責:校長 神尾孝弘

思い出缶詰を作ろう

1月17日(月曜日)。福田公民館と福田地区青少年健全育成会の協力で、全校生で思い出缶詰を作りました。この企画は、3月に閉校を控えた子どもたちに、福田小での思い出を残してあげたいという願いから実現したものです。地域の皆さんにより、約1年前から計画と準備が行われてきました。

今日は、思い出缶詰に飾るパッケージを作りました。福田小へのメッセージや思い出のイラストをかいたり、きれいな飾りを付けたりしました。どの子の作品も、福田小への思い出がいっぱい詰まった素敵なものばかりです。子どもたちにとって、自分たちが地域の人たちに大切にされ、見守られていることを実感できる時間となりました。

2月上旬には、思い出に残したい品物を缶の中に詰めて蓋をします。そして、学校や公民館に飾った後、10年ほど保管してもらう予定です。月日が流れ、思い出缶詰を開けると、子どもたちは改めて家族や福田地区の皆さんに見守られて成長した日々を思い出すことでしょう。そして、福田地区の温かさや素晴らしさを実感することでしょう。その日が楽しみです。



【地域の伝統文化「団子さし」】

1月13日(木曜日)。1年生と2年生は、森の案内人の皆さんのご指導により、伝統行事の団子さしを体験しました。団子さしには、無病息災や豊作の願いが込められていることなどを教えていただき、子どもたちは、興味深そうに聞き入っていました。

子どもたちは、今年も感染対策をしながら、団子の形を丸く整えたり、ミズキの木に団子をさしたりと、地域の伝統文化に親しみました。きれいに団子さしが完成していく様子を見つめる子どもたちの瞳はきらきらと輝いていました。学校の昇降口では、色鮮やかに飾り付けられたミズキの木が子どもたちを見守っています。地域の皆さんの協力をいただき、伝統文化を体験できる福田小学校の子どもたちは幸せだと思います。ご協力をいただいた皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

